

農林水産商工常任委員会提出資料

(平成24年10月10日)

項目	ページ
1 台風16号及びそれに伴う大雨による農林業被害について 【農政課】	1
2 ロシアへの鳥取県農産物販売促進団の派遣結果等について 【農政課】	2
3 平成24年度「食のみやこ鳥取県フェスタ」の開催について 【農政課】	3
4 主要農産物の生産販売状況について 【生産振興課】	4
5 台湾向け二十世紀梨輸出に係る販売促進団の派遣結果について 【生産振興課、市場開拓課】	5
6 第10回全共プレイベント（オレイン和牛の饗宴）結果について 【畜産課】	6
7 第1回全国know村サミット in とっどりの開催について 【農地・水保全課】	7
8 国営中海土地改良事業の総事業費の変更について 【農地・水保全課】	8
9 第42回全国林業後継者大会鳥取県大会の準備状況について 【森林・林業総室】	9
10 緑の産業再生プロジェクト事業等における調査結果について 【森林・林業総室】	10
11 第64回全国植樹祭の準備状況について 【全国植樹祭課】	11
12 第13回日韓水産セミナーの開催について 【水産課】	12
13 「食のみやこ鳥取県」地産地消推進プロジェクトについて (民間企業とのコラボ企画) 【食のみやこ推進課】	13

農 林 水 産 部

台風16号及びそれに伴う大雨による農林業被害について

平成24年10月10日
農 政 課

9月16日(日)から17日(月)にかけて通過した台風16号及びそれに伴う大雨により、県内で以下のとおり農林業関係被害が発生しました。

被害状況

1 農業関係被害

(1) 農作物被害

品目名	被害規模	被害額	市町村	主な被害状況
梨	0.21ha	1,042千円	倉吉市 三朝町 南部町	・落果被害
白ネギ	0.18ha	1,231千円	米子市	・高潮による海水流入で枯死等
ニンジン	0.07ha	191千円	米子市	
水稲	2.20ha	2,481千円	米子市	
合計	2.66ha	4,945千円		

(2) 農地・水路・農道等施設被害

区分	被害内容	被害か所数・面積又は延長	被害金額	発生箇所
農地	水田畦畔の一部崩壊又は土砂流入	2か所・0.42ha	1,500千円	鳥取市
		3か所・0.32ha	10,000千円	智頭町
	小計	5か所・0.74ha	11,500千円	
農業用施設	水路の法面又は水路崩壊、土砂流入	3か所・34.5m	2,600千円	鳥取市
		3か所・40.0m	9,000千円	智頭町
	小計	6か所・74.5m	11,600千円	
	農道の法面崩壊	3か所・28.0m	1,800千円	鳥取市
	頭首工の損傷	1か所・17.5m	2,000千円	鳥取市
合計		15か所・-	26,900千円	

2 林業関係被害

区分	被害内容	被害か所数・延長	被害金額	発生箇所
林道	林道の路肩崩壊等	1か所・10.0m	2,500千円	鳥取市

ロシアへの鳥取県農産物販売促進団の派遣結果等について

平成24年10月10日
農 政 課

今年度第2弾となる、県産梨・すいか等のロシア輸出に併せて、10月2日(火)から6日(土)まで、ウラジオストク等に販売促進団(県農業団体、県及びジェトロ鳥取)を派遣し、梨・すいか等の試食展示会等下記のとおり実施しました。

記

1 「鳥取ブランド展 in ロシア 2012」での試食展示会の開催

- (1) 日 時 10月3日(水)～4日(木)
- (2) 場 所 スポーツコンプレックス「チャンピオン」(ウラジオストク市内)
- (3) 実施内容
 - ①会場メインステージでの県産農産物等の紹介
 - ②梨(二十世紀梨、新甘泉)、すいか、米及びミニトマト等の試食・展示
 - ③鳥取県ブースでの県産農産物等の紹介(県産農産物PRロシア語DVDの放映、ポスター・チラシ展示・配布等)

2 スーパーマーケットでの試食販売会の開催

- (1) 日 時 10月4日(木)～5日(金)
- (2) 場 所 ウラジオストク市内2店舗、ナホトカ市内1店舗(新規販売店舗)
- (3) 実施内容
 - ①梨の試食
 - ②県産農産物等の紹介(県産農産物PRロシア語DVDの放映、ポスター・チラシ展示等)
- (4) 販売価格

二十世紀梨	1個	188ルブル	(約470円)
新甘泉	1個	241ルブル	(約603円)
すいか	1玉	2,016ルブル	(約5,040円)
ミニトマト	200g袋	199ルブル	(約498円)
白ねぎ	2本束	191ルブル	(約478円) ※1円=2.5ルブルで計算

3 主な成果等

- (1) 来場者及び来店者の主な感想
 - ・梨は二十世紀梨、新甘泉ともたいへん美味しい、買って食べてみたい。
 - ・すいか、ミニトマトともこんなに甘みがあるものは食べたことがない。
 - ・「鳥取」の農産物は、スーパーマーケットで見たことがある。初めて食べたけどおいしい。
 - ・梨はおいしいけど、高くてなかなか購入できない。
 - ・このような試食販売会を定期的に実施してほしい。
- (2) 主な成果
 - ・初めて大規模なイベントへの参加、それに伴う現地マスコミによるホームページ掲載及びテレビニュース放映、新たにナホトカ市内スーパーマーケットでの試食販売会を通じて、より多くの消費者に鳥取県及び県産農産物をPRすることができた。
 - ・競合産地が少ないすいかについて、現地バイヤーから追加注文があり、今後、輸出量を増やせる可能性が確認できた。



平成24年度「食のみやこ鳥取県フェスタ」の開催について

平成24年10月10日
農 政 課

県民の農林水産業に対する理解を深めるため、また、地域特産物及び地場産業の振興を促進することにより「食のみやこ鳥取県」を推進するため、「食のみやこ鳥取県フェスタ」を開催します。

なお、本年は「みんなのエコフェスタ in とっとり」との連携開催となります。

1 展示会・即売会等

(1)日 時 11月10日(土) 午前10時から午後4時
11日(日) 午前9時から午後3時

(2)内 容 県内で生産された農林水産物、地域特産物及び加工品等の展示、即売会など

2 場 所 コカ・コーラウエストスポーツパーク

(鳥取県立布勢総合運動公園・県民体育館周辺)

3 主な催し内容 【屋外で開催】

区 分	内 容
啓発展示	<p>【鳥取県優秀経営農林水産業者等紹介コーナー】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鳥取県優秀経営農林水産業者として知事表彰を受けた農林水産業者等の活躍の様子や功績等をパネルで紹介 <p>【農林水産技術等普及啓発コーナー】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県の試験研究機関における試験研究成果、新品種の紹介、農林漁業関係団体による啓発パネル等の展示等 第64回全国植樹祭・第30回全国都市緑化とっとりフェアのPR等
即 売 会	<p>【大地と海の恵みエリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> 農林水産業団体による農林水産物や加工品の紹介・販売 農林水産業の普及・啓発のための体験イベント開催 <p>【鳥取の味・交流エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鳥取県自慢の郷土料理や食材、ふるさと認証食品の展示、試食、販売及び近県からの出店 <p>【ふるさと自慢エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元グループによる名物料理、加工品等の販売 食をはじめとした市町村のPR

(その他のイベント)

コーナー名等	内 容
木工教室	親子で楽しむ木工教室の開催
ペット相談コーナー	鳥取県獣医師会によるペット相談

4 主 催

食のみやこ鳥取県フェスタ実行委員会(会長:高見 俊雄 J A鳥取県中央会会長)

構成機関:鳥取県、県市長会、県町村会、J A鳥取県中央会、J A鳥取信連

J A全農とっとり、J A共済連鳥取、NOSAI鳥取、県森連、県漁協など18団体

主要農産物の生産販売状況について

平成24年10月10日
生産振興課

1 水稻

(1) 作柄概況

6月上～中旬にかけて日照が少なく、一時的に茎数の増加が緩慢となったが、その後は順調に推移し、面積当たりの籾数は平年並となった。また、出穂後の気象が高温・多照で推移していること、台風などの被害が少ないことから、9月15日現在の作況指数は103（やや良）が見込まれる（中国四国農政局鳥取地域センター）。

(10アール当たり)

区分	予想収量(kg)	平年収量(kg)	作況指数(作柄)
鳥取県	527	514	103(やや良)
中国地区	524	517	101(平年並み)
全国	539	530	102(やや良)

(2) 収穫・品質検査成績の概況

- 9月20日現在の収穫の進捗率は63%と、過去5年で最も早い。早まった要因は、高温で登熟が早く進んだこと、比較的天候にも恵まれたことなど（生産振興課調べ）。
 - 9月15日現在の水稻うるち玄米の1等米比率は39%（昨年同期53%）とやや低い。低下の要因としては、生育後半の栄養不足に起因すると思われる基部未熟粒や背白粒等の発生があげられる（全農とっとり取扱分）。
- また、夏季に高温が続き、H22年に問題となった乳白粒等の発生が懸念されたが、夜温が同年より低めに経過したこともあり、大きな影響は見られなかった。

2 梨

(1) 二十世紀梨の販売状況

8月30日から始まった二十世紀梨（露地）の販売は、9月21日で概ね終了した。近年、価格低迷や実止まり不良などが続いていたが、市場販売では、数量、単価ともに前年を上回った。

高単価の要因としては、好天で品質が良好であったこと、幸水や豊水の主要産地が干ばつの影響で生産量が減ったこと、台湾、香港で果物需要が高まる中秋節が9月30日と遅く、大玉果を輸出に向けることで国内市場との需給調整ができたことなどがある。

各選果場では進物・直販にも力を入れており、精算単価は350円/kgを超えるものと推測される（H23進物・直販割合：30.5%）。

	H24		H23		H24/H23対比	
	数量(t)	単価(円/kg)	数量(t)	単価(円/kg)	数量(%)	単価(%)
二十世紀梨	5,343	293	5,204	260	103	113

※全農ととりの9月21日時点の速報値（市場出荷分の集計）

市場販売単価の年次推移

年	H24	H23	H22	H21	H20	H19
単価(円/kg)	293	255	366	220	236	299

※H22年は高単価であるが実止まり不良の年、H24年（9月21日現在）以外は最終販売単価

(2) 新品种「なつひめ」「新甘泉」の販売状況

8月26日から9月10日にかけて出荷し、市場出荷分の暫定集計では、合計数量が144t（前年比142%）と順調に増加した。単価は、両品種とも二十世紀梨に比べて高値ではあるが、「なつひめ」は、出荷時期が遅くなると、「二十世紀梨」の販売と競合して販売しにくいとの声もあり、今後、生産者や農業団体と販売面の対応を検討していく。生産量の増加に伴って、市場販売以外にも進物や県内の直売所、スーパーなどでの販売も増えてきており、県民の認知度も高まりつつある。

	H24		H23		H24/H23対比	
	数量(t)	単価(円/kg)	数量(t)	単価(円/kg)	数量(%)	単価(%)
なつひめ	49	398	33	335	148	119
新甘泉	95	447	68	421	139	106
合計	144	—	101	—	142	—

※全農とっとりまとめ（市場販売分の集計）

台湾向け二十世紀梨輸出に係る販売促進団の派遣結果について

平成24年10月10日
生産振興課
市場開拓課

平成24年産二十世紀梨の輸出に併せて、9月21日から23日まで主要輸出先である台湾に販売促進団を派遣し、小売店での試食宣伝活動等を実施しました。

1 販売促進団の構成及び主な訪問先

(1) 鳥取県産二十世紀梨販売促進団の構成

- ・JA全農とっとり、各JA果実部長、県農林水産部 計13名

(2) 主な訪問先

- 亜東関係協会（台北市）：非政府機関で対日窓口機関。実質的には中華民国（台湾）外交部所管
- 卓蘭鎮農会（苗栗県）：梨穂木の輸出先（農会は日本の農協に当たる）
- JASONS台北101店（台北市）：二十世紀梨の試食宣伝（高級スーパーマーケット）
- 高島屋大葉店（台北市）：二十世紀梨の試食宣伝（百貨店）

2 概要

(1) 台湾への二十世紀梨の輸出実績

年度(中秋節)	H20(9/14)	H21(10/3)	H22(9/22)	H23(9/12)	H24(9/30)
輸出量(ケース・10kg)	18,367	34,520	10,836	9,143	37,000

(2) 二十世紀梨輸出について

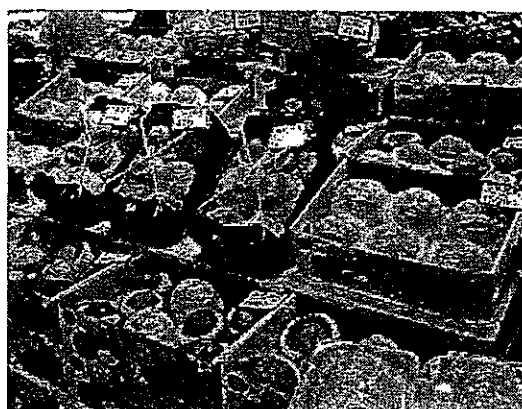
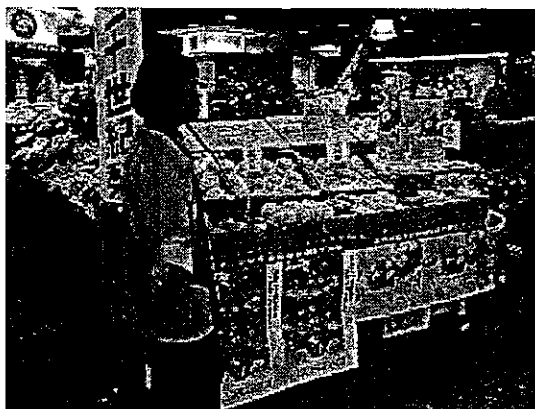
- ・春節（旧正月）は日本のりんご、中秋節（旧暦8月15日、本年は9月30日）は日本の梨が贈答品の中心となり、県産二十世紀梨は贈答品として高値で販売されていた。
- ・倉吉産の、生産者番号付きの玉シールは大好評で、輸入業者からは、すべての梨に貼って欲しいとの要望がある。大玉であること、美味しいことに加えて、安全管理の徹底が二十世紀梨ブランド化のポイントと認識される。

(3) 亜東関係協会に対する通関協力のお礼

- ・昨年、台風12号の影響で船便が遅延した際に、前農林水産部長が訪問し、迅速な通関を要請した結果、無事、陸揚げできたことに対するお礼の表敬訪問を実施した。今回、顔副秘書長は、「今後とも通関手続きについては、要請があれば対応する」と、協力を表明。

(4) 穂木輸出の課題

- ・近年、台湾では梨の穂木が不足しており、本年度は日本産以外に山東省からの試験輸入を計画している。日本の穂木は品質が良く人気があり、鳥取県のシェア確保のため県内生産者へ穂木集荷を呼びかける予定である。



第10回全共プレイベント(オレイン和牛の饗宴)結果について

平成24年10月10日
畜産課

オレイン酸含有率による和牛肉のブランド化を全国に先駆けて実施している鳥取県、長野県、大分県が第10回全国和牛能力共進会(第10回全共)本番1ヶ月前に3県合同イベントを開催し、第10回全共及び「鳥取和牛オレイン55」などをPRしました。

1 イベントの概要

- (1) 日時 平成24年9月23日(日) 正午から午後2時30分
- (2) 場所 八芳園(東京都)
- (3) 主催 鳥取県、長野県、大分県
- (4) 出席者 マスコミ、食肉関係者など24社
- (5) 内容
 - ア 3県知事・副知事による各県オレイン和牛の説明
 - イ 渡辺専任講師(昭和女子大学)によるオレイン酸の説明
 - ウ 3県それぞれの匠シェフによるオリジナルメニューの試食
 - エ 3県知事・副知事によるトークセッション

2 結果

- ・ 和牛肉の評価が脂肪の量から脂肪の質へと転機を迎えている中、3県の「オレイン和牛」は全国をリードしたブランドであることが伝えられた。
- ・ 渡辺専任講師(昭和女子大学)から「オレイン酸」の健康面での効能が説明され、「オレイン和牛」は体によい良質な脂肪であることが伝わった。
- ・ オリジナルメニューの試食で、「オレイン和牛」の最大の魅力である脂のキレとまるやさかを体感してもらうことができた。
- ・ 3県による「オレインさん国同盟」が結成され、第10回全共でお互いの健闘を誓うとともに、今後も「オレイン和牛」のブランド化において連携していくことが確認された。



(左から) 阿部長野県知事、平井鳥取県知事
小風大分県副知事



鳥取県担当の山本秀正シェフ(右端)

※第10回全国和牛能力共進会

5年に一度開催される「全国和牛能力共進会」は各県の和牛の改良の成果を競う場であり、全共の成績が各県和牛ブランドの知名度を左右するものとなっている。

今年10月に開催される全共長崎大会肉牛の部から、牛肉の美味しさに関係し和牛肉の特長である脂肪の質を示す不飽和脂肪酸(そのうちの約90%がオレイン酸)含有量が新たに審査基準の一つに加えられ、優秀な出品牛には「脂肪の質」賞が与えられる。

第1回 全国know^{のうそん}村サミット in とっとり^との開催について

平成24年10月10日
農地・水保全課

鳥取県では、中山間地域における高齢化や人口減少、鳥獣害などにより農業生産が困難となりつつある現状に対応するため、ボランティア派遣をNPO法人に事務委託して行っています。

このたび、この事務委託を行っているNPO法人学生人材バンクとの共催で、全国の農山村で農業や地域振興に活躍する学生団体が集まり、ワークショップによりお互いの活動内容や課題を共有することで、今後の活動内容の充実や解決策を考えるための全国初のサミットを鳥取県で開催しました。

1 日 時 平成24年10月6日(土) 午後1時～5時

2 場 所 鳥取県庁 講堂

3 主 催 NPO法人 学生人材バンク、鳥取県、鳥取大学

4 内 容

(1) ワークショップ

「活動していく中で感じる課題と、その解決の方法を皆で考えよう！」をテーマに、農山村でのボランティア活動や地域おこし活動について、受入側（農村）と送り手側（学生、サポートスタッフ）の連絡、調整、活動の課題・解決策について、班別に分かれて意見交換を行った。

(2) トークセッション

学生団体の班別の議論に対する聴講者側からの意見を集約した。

5 参加者

(1) ワークショップ参加団体

- ・ 県外参加団体 9団体
神戸大学、早稲田大学、鹿児島大学、関東大学生有志3団体、福岡県大学生有志弘前大学、三重大学
- ・ 県内参加団体 3団体
鬼入道グリーンツーリズム研究会、(株)さじ式拾壹、楽園（日野町若手新規就農者グループ）、NPO法人田舎暮らしの応援団ほか

(2) トークセッション

佐久間康富（大阪市立大学助教）、筒井一伸（鳥取大学准教授）、^{かさね}嵩和雄（NPO法人100万人のふるさと帰郷・循環運動推進支援センター）、坂本誠（全国町村会）、田中玄洋（学生人材バンク）

6 会場での主な意見

- ・ 地元とボランティアとの間を調整できるコーディネーター役が必要。
- ・ ボランティア活動参加者のモチベーションを維持するためには、田舎でなければできない事をもっと楽しむことができる仕組みが必要。
- ・ ボランティア活動の集落は高齢者ばかり、今後20年後には集落がどのようになるか、地元の不安が大きいなかで20代の学生との間における意識の差が大きい。
- ・ 集落がボランティアの学生に何を求めるか、集落内で議論してもらいたい。学生を上手に利用する方法を考える事が大事。

7 今後の検討事項

- ・ 単なるボランティア活動に留まらず、地域振興など、目的意識をもって活動に参加している学生が多いことがわかったことから、このような学生の社会貢献の意欲を活かす事のできる仕組みの検討が必要。

国営中海土地改良事業の総事業費の変更について

平成 24 年 10 月 10 日
農地・水保全課

中国四国農政局長から、平成 24 年 9 月 21 日付けで、国営中海土地改良事業の総事業費を変更する旨の通知があったので、報告します。

1 変更の内容

(1) 総事業費の変更

- ・鳥取県側の増額 3 億 4 千万円 (県の負担額の増 3 千 4 百万円)
- ・増額理由 彦名、弓浜暫定池の畑面整備のための表土について、公共残土及び暫定池堤防土を利用することとしていたが、良質土を確保できなかったため、購入土(砂)に変更した。

(単位:億円)

区 分	総事業費	H16 年度以降事業費			完了予定年度
		鳥取県	島根県	計	
現 行	1,180.00	120.00	203.00	323.00	H25 年度 (鳥取県側 H24 年度)
今回変更	1,183.60	123.40	203.20	326.60	H25 年度 (鳥取県側 H25 年度)
増 減	3.60	3.40	0.20	3.60	
県負担の増	0.36	0.34	0.02	0.36	県負担 10%

(2) 完了年度の変更

- ・鳥取県側の完了年度 H24 年度 (全体 H25 年度) → H25 年度 (全体 H25 年度)
- ・変更理由 事業費の増額に伴い、H24 年度完工が困難となった。

2 県の対応方針

- (1) 県の負担増 (3 千 4 百万円) を伴うため、金額、効果をチェックしたところ、白ネギ等の栽培に適した農地とするための整備は必要であり、事業費増及び工期延長はやむを得ない。
- (2) 事業完了に際しては、造成施設 (米川からの送水施設及び干拓地内の調整池・排水機場等) を地元が安心して引き受けられるように、施設の機能検証を十分にを行い、不具合があれば責任を持って解消するよう、引き続き国に申し入れる。

○中海土地改良事業の経緯 (参考)

年 月	内 容
S38 年	国営中海土地改良事業に着手
H14 年 12 月	農林水産大臣が「中海淡水化事業の中止」を表明
H17 年 3 月	農林水産省が中浦水門施設撤去工事を着手 (事業再開)
H21 年	中浦水門施設撤去工事が完成 (3 月) 森山堤防開削工事が完成 (5 月)
H22 年 4 月	彦名工区送水開始
H24 年 4 月	弓浜工区送水開始

第42回全国林業後継者大会鳥取県大会の準備状況について

平成24年10月10日

森林・林業総室

1 開催目的

第64回全国植樹祭関連行事として、全国の林業後継者が一堂に会し、持続可能な森林づくりの担い手としての役割や林業の楽しさについて意見を交わし、輝ける林業後継者の姿を国民に発信するために、全国林業後継者大会を開催する。

2 開催テーマ

「つなげよう 森の力 森を育てるあなたの手」

3 開催日 平成25年春 第64回全国植樹祭の前日 午後0時45分～5時

4 開催場所 三朝町総合文化ホール（三朝町大瀬999-2）

5 主催 鳥取県林業研究グループ連絡協議会、全国林業研究グループ連絡協議会、三朝町、鳥取県

6 参加者 林業後継者、林業関係者、行政関係者等 約450名

7 大会内容（案）

(1) オープニングアトラクション

(2) 開会式典

(3) 活動発表

鳥取県らしい活動を全国に紹介する

- ・智頭町まるたんぼう 「森のようちえんの取組」
- ・八頭町林業研究会 「地域の森林を団地化して間伐を推進する取組」
- ・倉吉農業高校 「演習林で間伐実習などの取組」

(4) 基調講演 「これからの林業と担い手について」

講師 京都大学 長谷川 尚史 准教授

(5) パネルディスカッション

- ・テーマ 「林業後継者が林業を続けていくためには」
- ・コーディネーター 長谷川 尚史 准教授
- ・パネリスト 林研グループ代表、素材生産業者、Iターン就業者、女性林業者（20～40代の方を予定）

若くして林業に入った4名のパネリストに、大変と言われる林業をいかにして続けてきたのかを議論していただき、楽しく生きがいを持って活躍する鳥取県の林業後継者の姿を発信する。

(6) 大会宣言 若手林業者の男女

(7) 次期開催県挨拶 新潟県

8 今後のスケジュール

平成25年2月 第6回実行委員会 実施計画案の承認

平成25年4月 第7回実行委員会 実施計画及び役割分担の確認

平成25年5～6月

第42回全国林業後継者大会鳥取県大会開催

緑の産業再生プロジェクト事業等における調査結果について

平成24年10月10日
森林・林業総室

三朝町が補助事業者で実施した緑の産業再生プロジェクト事業における不適切な執行事案（実施主体：大和森林株式会社）を受けて、同様の事案がないか緊急調査を実施しました。

1 調査の結果概要

三朝町を除く130箇所について、造林公社、市町及び県が調査（9月19日～25日）を行ったところ、適正な施業が行われているとともに、大和森林（株）が不正に補助金の交付を受けている事実は無いことが確認された。

2 調査実施箇所

過去5年間（平成19～23年度）に県内で大和森林（株）が行った森林整備に関する補助事業（造林事業及び緑の産業再生プロジェクト事業）130箇所の調査を実施。

事業名	箇所数	面積 (ha)	補助金額 (千円)
緑の産業再生プロジェクト事業	51	380.03	78,965
造林公社	42	267.30	50,787
市・町※除三朝町	9	112.73	28,178
①（鳥取市）	(2)	(19.01)	(4,750)
②（岩美町）	(1)	(4.00)	(1,000)
③（八頭町）	(1)	(5.00)	(1,250)
④（若桜町）	(1)	(10.00)	(2,500)
⑤（智頭町）	(2)	(50.00)	(12,500)
⑥（南部町）	(2)	(24.72)	(6,178)
造林事業	79	368.07	65,634
造林公社	78	363.95	63,515
県	1	4.12	2,119
計	130	748.10	144,599

3 今後の対応

○森林整備事業における適切な執行について指導を徹底するとともに、検査を含めた事業実施体制について検討を行う。

→市町村・林業事業体を対象に10月11日及び12日に開催する「造林事業及び緑の産業再生プロジェクト事業にかかる意見交換」において、適切な執行について指導する予定。

4 その他

三朝町は、9月14日に大和森林（株）より補助金全額の返還を受けており、10月5日には三朝町から県にこの補助金が返還された。

なお、返還された補助金は、緑の産業再生プロジェクト事業で有効に活用するため、11月補正で基金に積立てる基金造成事業を要求する予定。

第64回全国植樹祭の準備状況について

平成24年10月10日
全国植樹祭課

「第64回全国植樹祭」の開催に向け、カウントダウンイベントを開催するなど、開催気運を高めながら準備を進めています。

1 カウントダウンイベントの開催

(1) 東部地区

名称 「いなばグリーンフェスタ～森から広がる因幡の未来～
第64回全国植樹祭カウントダウンイベントin因幡」
日時 10月6日(土) 午前10時～午後3時
場所 森林公園とっとり出合いの森(鳥取市桂見293)
主催 (社)鳥取青年会議所、第64回全国植樹祭鳥取県実行委員会 ほか
内容 東部・八頭地区の市町代表者による記念植樹、フォーラム、しいたけ植菌体験、竹林伐採体験、苗木無料配布スタンプラリー など

(2) 中部地区

名称 「第64回全国植樹祭カウントダウンイベントin琴浦 船上山 森の感謝祭」
日時 10月21日(日) 午前9時30分～午後2時
場所 船上山万本桜公園周辺(琴浦町山川)
主催 琴浦町、第64回全国植樹祭鳥取県実行委員会
内容 中部地区の市町代表者による記念植樹、小中学生による緑の実践発表(八橋小、以西小、赤碕中)、ダム湖1周ウォーキング、苗木無料配布 など

(3) 西部地区(検討中)

名称 「第64回全国植樹祭カウントダウンイベントin江府(仮称)」
日時 11月5日(月) 午前10時～午前11時30分
場所 国立公園奥大山鏡ヶ成高原めぐみの森(江府町鏡ヶ成)
主催 江府町、第64回全国植樹祭鳥取県実行委員会
内容 西部・日野地区の市町村代表者による記念植樹、江府小学校記念植樹など

2 「式典プロローグ創作劇」子ども主人公オーディションの実施

- (1) 日時 10月7日(日) 午前10時～12時
- (2) 場所 鳥の劇場(鳥取市鹿野町)
- (3) 審査員 中島諒人(なかしま まこと) 芸術監督ほか鳥の劇場スタッフ、鳥取県農林水産部岸田参事監ほか
- (4) 対象者 県内在住で平成10年4月2日～平成15年4月1日生まれの児童生徒を対象に行った募集への応募者5名
- (5) 選考 一次選考(作文)を経て二次選考として、セリフや歌など個別審査等を実施。審査結果は後日練習開始日に公表。(主人公1名、代役1名)

3 協賛の状況

とっとり共生の森参画企業や県有林J-VER購入企業を中心に訪問依頼中。
協賛募集は平成25年4月末までとし、ホームページなどを通じて幅広く募集中。
現在までの大口協賛は次のとおり。

- ・山陰合同銀行
(資金協賛:200万円、贈呈式:9月4日(火)に実施)
- ・鳥取県森林組合連合会
(資金協賛:50万円、物品協賛:大会弁当に県産スギ材の割り箸7,000膳
贈呈式:10月11日(木)に予定)

4 当面の予定

- ・大会計画策定(実施計画)幹事会を10月下旬に開催予定
- ・実施計画中間検討案を審議し、11月に開催する県実行委員会総会で説明

第13回日韓水産セミナーの開催について

平成24年10月10日
水産課

鳥取県と韓国江原道の水産分野における交流と協力を推進することを目的に毎年「日韓水産セミナー」を開催しており、今年度は江原道から水産関係者が来県され、次のとおりセミナーを開催します。(平成9年から相互に開催。今年度で13回目)

1 開催日時 平成24年10月25日(木) 10時から17時
(来日日程 平成24年10月23日(火)から26日(金))

2 会場 倉吉未来中心 セミナールーム3

3 参加機関
＜江原道＞

環東海本部漁業支援課、水産技術支援センター、海洋深層水水産資源センター
江陵原州大学、江原道刺網連合会、韓国国立水産科学院 計11名

＜鳥取県＞

農林水産部水産振興局(水産課、水産試験場、栽培漁業センター)、鳥取大学
鳥取県漁協網代港支所、秋田県農林水産部水産漁港課、
(独)水産総合研究センター日本海区水産研究所(以下「日水研」という。) 計11名
※ 傍聴席を用意することとしており、県内漁業関係団体、各市町村等に出席を呼びかけている。

4 発表テーマ・発表機関

【テーマ1】ハタハタ産卵場造成、資源管理に関する講演 ハタハタ資源の回復のために～資源管理・種苗放流・産卵場造成～	秋田県水産漁港課
【テーマ2】各道県の個別議題 1 スラグ材を利用した藻場造成プロジェクトについて 2 韓国における藻場造成に関する研究事例(課題)	鳥取大学 江陵原州大学
【テーマ3】ハタハタに関する地域活性化 1 鳥取県産ハタハタのブランド化に向けた取り組みについて 2 ハタハタの資源回復、私たちの手で…	鳥取県漁協網代港支所 江原道刺網連合会
【テーマ4】ハタハタの産卵場造成・資源動向・資源生態・資源評価 1 鳥取県のハタハタ資源動向、資源管理について 2 韓国のハタハタ産卵場造成・資源動向について 3 日本本州沿岸域のハタハタ資源動向・評価について 4 ハタハタ資源調査研究の現状と今後の課題	鳥取県水産試験場 韓国国立水産科学院 日水研 日水研

5 その他

当初、ハタハタの産卵場造成に係る共同調査・研究に繋がるテーマを設定することとしていたが、韓国では水産資源の調査・研究業務を国機関が担うこととされており、道にその役割がないことから、両国の試験研究機関(日水研・韓国国立水産科学院)からも参加いただき、ハタハタの資源管理の推進に向けた情報交換等を行うこととした。

「食のみやこ鳥取県」地産地消推進プロジェクトについて

(民間企業とのコラボ企画)

平成24年10月10日
食のみやこ推進課

6月に実施した地産地消推進キャンペーンに引き続き、連携企業を拡大するとともに新たに水産物を加えて県内全域にわたる地産地消キャンペーン(第2弾)を11月に展開し、県内の農林水産物の魅力を県民の皆様に再認識していただき、内食中食の両面で地産地消の推進を図る。

1 実施内容

(1) プロジェクトの全体構成 (連携企業を拡大：3企業→8企業)

J Aグループ鳥取、鳥取県漁業協同組合、鳥取県青果市場連合会、味の素(株)、(株)オタフクソース、ミツカン(株)、(株)徳田商店、大幸(株)、県内量販店90店舗(イオン、トスク、東宝ストア、丸合、サンマート等10企業)、鳥取県
※下線部は新規の連携企業

(2) メインとなる県内産農林水産物 (水産物を追加)

親がに、ハタハタ、モサエビ、ねばりっこ、白ねぎ、ブロッコリー、豚肉
※下線部は新規の食材

(3) シンボルとなるメニューの開発

味の素(株)他が上記食材をふんだんに使用したメニュー5種を開発したほか、平井りえ知事夫人がメニュー1種を考案した

- ①山陰沖親がにのすっぱ辛いとろみ麺～酸辣湯麺～
- ②ねばりっこ納豆のお好み焼き
- ③トロトロねばりっこの肉団子スープ他

(4) キャンペーン展開

- ①キャンペーンオープニングイベント 平成24年11月上旬予定
- ②キャンペーン展開(平成24年11月7日～30日)

【内食】県内量販店90店舗でメニュー提案するとともに、各売場にポスター、ポップ、メニューリーフを設置し食材・関連商品を販売する

【中食】量販店の惣菜として「ねばりっこ納豆のお好み焼き」を提供予定



山陰沖親がにのすっぱ辛いとろみ麺

2 期待される効果

- (1) 連携企業の拡大によって一層充実した内容で地産地消キャンペーンを展開し、県産農林水産物の魅力を強力にアピール
- (2) 県主導では実現できない連携企画であり、ナショナルブランド(味の素(株)他)によるポスター・チラシ掲出等で県産品をPRすることで、県民の皆さんへの高い宣伝効果を期待

[参考] 6月に実施した地産地消キャンペーン(第1弾)の結果概要

J Aグループ鳥取、鳥取県青果市場連合会、味の素(株)がコラボし、県内量販店90店舗でねばりっこ等を使用したメニュー6種を開発提案し、食材の販売促進を行うキャンペーンを展開した。

- ①県産農林水産物の販売金額がアップした。

ねばりっこ(215%)、ブロッコリー(113%)、らっきょう(109%)

- ②ナショナルブランド(味の素(株))による新聞広告・チラシ掲出等で県産品をPRした。また、味の素(株)ホームページでメニュー紹介し、全国へ情報発信した。